

Cover Story

スプリング・エフェメラル (Spring ephemeral) …「春の妖精」

春先の植物の中には、開花期が短く、植物体そのもの（いわゆる葉や茎）も初夏までには枯れてなくなってしまうものがある。そのため、この時期の植生調査は間を1週間と空けられない。これらの植物は「スプリング・エフェメラル」、別名「春の妖精」と呼ばれている。

この話を載せるのを「冬号」にするか

「春号」にするかで悩むところだが、春号発行の前からこれらの植物は花を咲かせ始めるため、冬号に掲載することとした。



この植物に共通する特徴は、冬に落葉して陽があたるようになる落葉広葉樹の林床に生育して、他の植物が萌芽して太陽光線の奪い合いが始まる前にライフサイクルのほとんどを終える、という点である。そして地上部が枯れた後は、春の弱い日差しの中で光合成により生み出した栄養素を球根などの地下の貯蔵器官で蓄えて長い休眠期間に入り、翌年の早春に再び芽生えて花を咲かせる、というサイクルを繰り返す。

志木高にはそのような植物がいくつかある。代表的なものの一つは「カタクリ」。かつて片栗粉の原料になっていた植物である（現在の片栗粉は“看板に偽りあり”で、ほとんどがイモ類のデンプン）。H.R.棟と管理棟の間の雑木林の林床に毎年、紫色の下を向いた花を咲かせている。そして、いま一つは「ムラサキケマン」。これも林縁などに毎年可憐な花を咲かせる。

スプリング・エフェメラルではないが、よく似た生活形態をとっているものにヒガンバナがある。この時期、まだ本校の林縁で緑色の細長い葉を出し、緩やかに光合成を行いながら、球根に栄養を蓄え続けている。この葉は間もなく黄変して枯れてしまうが、地下に蓄えられた栄養を使って秋口に一気に花を咲かせる。ヒガンバナの葉の形や特徴をほとんどの人が知らないのはこのためである。



カタクリ 本校にて撮影

開花期が短い、ということはそれだけ人に気づかれる可能性が低い、ということである。さて、本校では、何人ぐらいの生徒が気づいているのだろうか…。言うまでもないが、人より多くのことに気づけることは、人生を豊かにする要素の一つである。

(Miyahashi)

いまは一年の中で最も寒い時期。鴨池の水面には毎日、薄い氷が張っています。暦の上で今は「寒」です。「寒」は「寒の入り」から「節分」までをいい、カレンダー上では1月6日から2月3日までになります。（閏年の関係で1月5日からになることもあります。）一年を24に分けた二十四節気という季節区分がありますが、「小寒」と「大寒」が寒の時期にあたります。

天文学的には寒は太陽の黄経がおよそ285～315度の期間に相当します。これは二十四節気と大いに関係があります。地球は太陽のまわりを一年で一周します。一周は360度です。これを24で割り算すると（ $360 \div 24 =$ ）15度となります。黄経のスタート（0度）地点は「春分」です。春分の次は「清明」（黄経約15度）、「穀雨」（黄経約30度）、「立夏」（黄経約45度）、…と続きます。そして19番目が「冬至」（黄経約270度）、20番目が「小寒」（黄経約285度）、21番目が「大寒」（黄経約300度）です。

ところで、今年は平年と比べるとどのくらい寒いのでしょうか。本校で観測している気温のデータを使って、過去10年分の「寒」の時期（1月6日～2月3日）の最低気温が氷点下になった日数を調べました。

【表】志木高における「寒」の時期の最低気温0℃以下の日数

最低気温	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
0～-2	10	6	12	4	7	7	11	19	11	14	5
-2～-4	1	7	4	0	5	2	4	7	7	5	2
-4以下	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0
合計	11	13	16	4	12	9	15	27	20	20	

※単位[℃]。※寒の時期は1月6日～2月3日とする。※2014年は1/6から1/14まで。

志木は東京よりもずっと冷え込みます。都心よりも内陸にある上、都会のヒートアイランドの影響は少ないために冷え込むのです。一方で熊谷と比べると冷え込みはゆるくなります。

さて、表を見るとどうでしょうか。ここ3～4年の最低気温0℃以下の日数は格段に増加しています。これは実感と合っているのではないのでしょうか。今年も1月14日までで、すでに7日になっていますので、このペースでいくと22～23日くらいにはなりそうです。最低気温の値ですが、2011～2013年は-4℃以下が1～2日あり、これらはいずれも-5℃前後まで低下しました。それ以前は0日ですから、ここ数年の冷え込みが厳しくなっていることがわかります。

もう少し長期間のスパンで見ると、2007年が比較的暖かいことがわかります。それ以前はやや寒くなっており、以後も寒くなってきている。ここ最近の寒さが厳しい。もしかすると、もっと前のデータを調べなければなりません、何か周期的なものがあるのかもしれない。それを見つけるためにも！？これからもデータを取り続ける必要があります。

節分は立春の前日です。寒が終われば、暦の上ではもう春です。たしかに日脚（日の長さ）はだんだん伸びています。春はすぐそこ、あともう少しです。

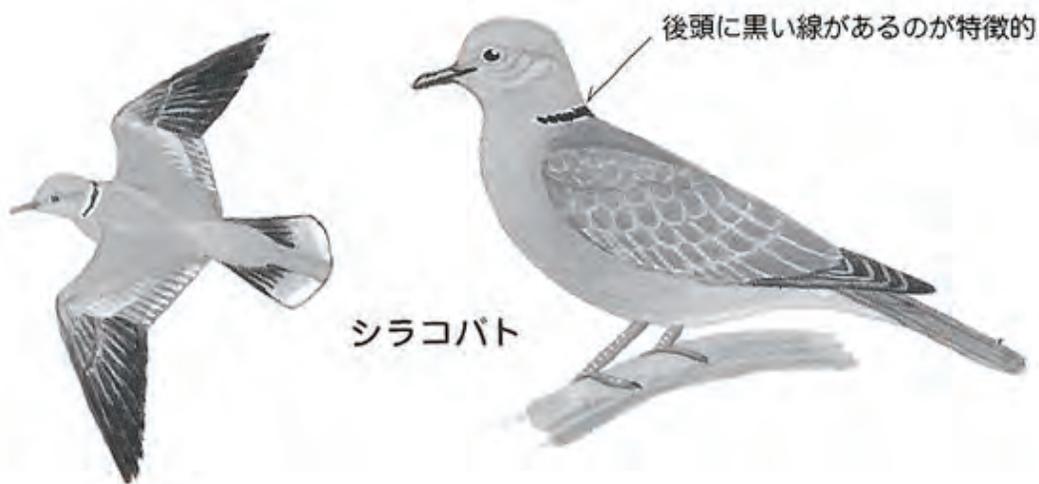
シラコバト

皆さんは埼玉県のマスコット「コバトン」をご存知でしょうか？あのモデルになっている鳥であるシラコバトが県内で減少しているそうです。昨年、埼玉県は初めて生息状況の調査をしたところ、76羽しか確認できなかったということです。県では今後、本格的な保護に乗り出すと表明したそうです。

実は、私も本物のシラコバトを見たことがなく、前々から本当にいるのかなと疑問に思いながら、校内にもたくさんハトがいるので、いつも探していました。その特徴は、名前のおり普通のハトより白っぽく、首にマフラーを巻いたような黒い帯があることでわかります。かつては志木校にもいたことはわかっており、それは生物室に剥製の標本があるからです。生物室の鳥の剥製は、校舎の窓などに間違っって衝突したりして死んでしまった鳥を剥製にしたものがほとんどです。生物室の廊下に面したショーケースの中にありますので、興味ある方は見てください。

ハトといえば昨年こんなことがありました。2年生のH君が、猛禽類かカラスにでも襲われたのか、墜落したハトが弱って飛べないと報告にきました。行って見ると部室棟のところで、首のあたりから血を流してうずくまったハトがいました。H君はハトに詳しいらしく、そのハトが足環をしているのを見て、すぐにレースバトだと判断し、鳩レース協会に電話をし、足環のナンバーから飼い主を調べて連絡してもらえるように手配したのです。私もレースバトなどは詳しくないので、彼のできばきとした行動にはとても感心しました。まもなく飼い主の方から電話があり杖をついたおじいさんが箱を持って迎えに来てくれました。おじいさんの話によると、家は新宿にあり、ハト小屋がノラ猫に襲われてその際に逃げ出してしまったのだということでした。新宿から飛んできたのにはびっくりですが、ハトにとってはたいした距離ではないのでしょうか。それよりハトをおじいさんに渡す私の足元に志木ネコが座っていたのが若干、気まずい感はありましたが…。ちょっと心温まるニュースでした。

きっとまた、シラコバトも校内に飛んでくることがあるかもしれません。皆さんもぜひ探してみてください。



【出典】「フィールドガイド日本の野鳥（増補改訂版）」日本野鳥の会（1982）

志木の自然[長月(9月)神無月(10月)霜月(11月)師走(12月)睦月(1月)]

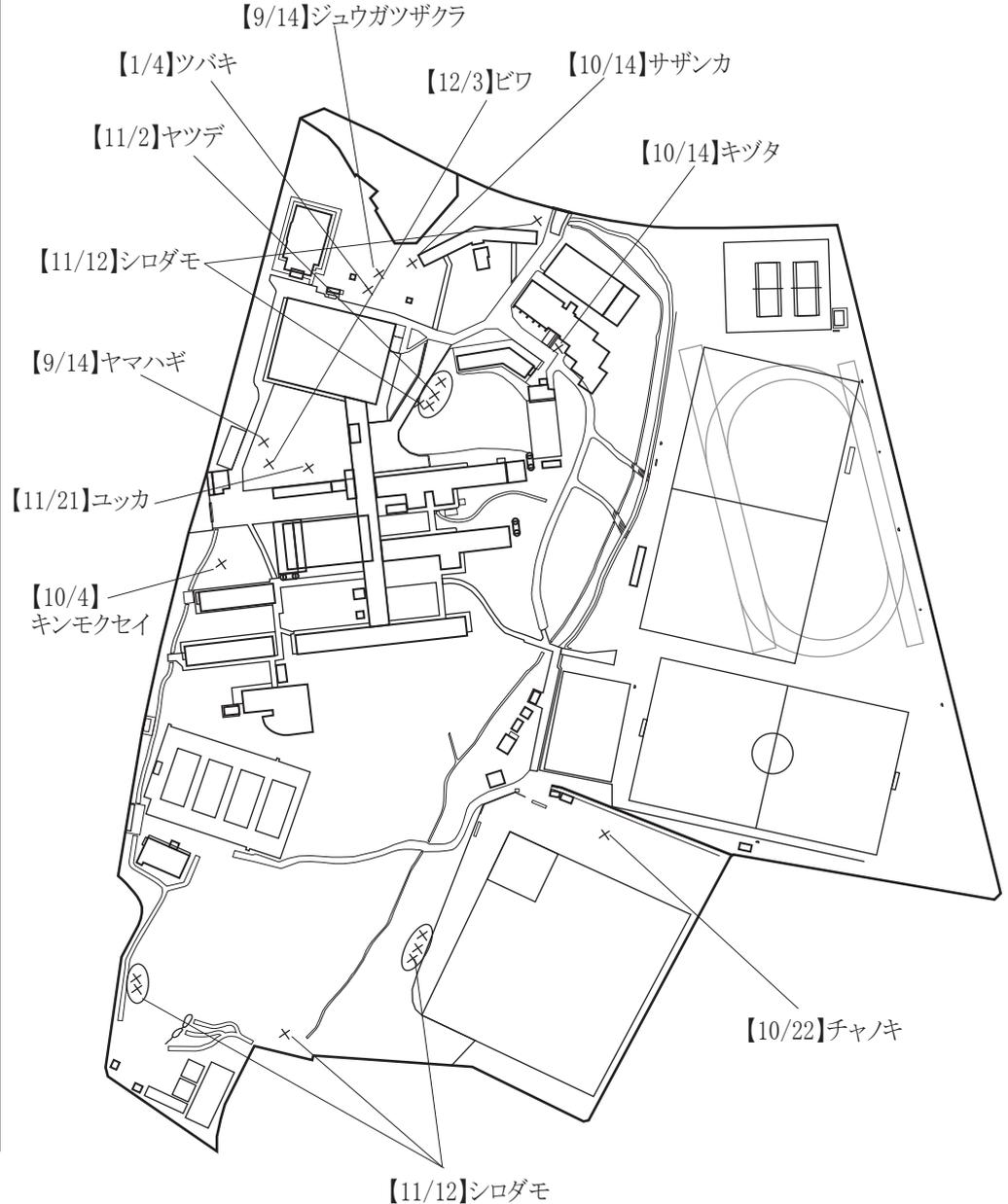
秋口にいつも分類に悩むシソ科の植物がある。『ヒメジソ』と同定しているが、イヌコウジュによく似る。北隆館の野草大図鑑では、茎の毛、鋸歯の様子、萼上唇の先をよく見れば相違がはっきりすると、事も無げに書かれているが、実際にはそれほど簡単なものではない。この植物、ハッカ属でもないのに葉をすりつぶすとハッカの香りがする。外来のペパーミントやスペアミントに比べて刺激が少なく、優しい香りである。

[2013年9月～2014年1月までの開花情報]

Grass

14. Sep. 2013 チヂミザサ, アキノゲシ,
ヌスビトハギ, ヒメジソ,
イヌタデ, カナムグラ, ヤハズソウ
25. Sep. 2013 アサザ, ギョウジャニンニク,
シソ,
4. Oct. 2013 ヤブミョウガ, ミョウガ, ヤブマメ,
ヨメナ, チカラシバ, ヘクソカズラ,
キクイモ, セイタカアワダチソウ,
アメリカセンダングサ
14. Oct. 2013 ホトギス, ツルドクダミ,
オオアレチノギク, アカジソ
22. Oct. 2013 サクラタデ, イヌガラシ
2. Nov. 2013 ノブキ
12. Nov. 2013 ツワブキ
21. Nov. 2013 ホトケノザ, ナズナ
3. Dec. 2013 ニホンズイセン, オオブタクサ
12. Dec. 2013 ノボロギク
4. Jan. 2014 カントウタンポポ
14. Jan. 2014 オオイヌノフグリ

Wood



(Miyahashi)

この限られた紙面では、名前の出ている植物や動物がどのようなものであるかをお示しする事は不可能です。名前を手がかりにぜひ図書館などで一度調べてみてください。

執筆・担当区分	動物・環境	井澤 智浩 (Izawa)
	鳥類・植物	速水 淳子 (Hayami)
	天文・気象	樋口 聡 (Higuchi)
	植物・地質 他[&発行責任]	宮橋 裕司 (Miyahashi)
	編集	荒巻 知子 (Aramaki)